

令和 8 年度 宮城県米づくり推進事項

令和 7 年度の本県の稲作は、田植後の 5 月下旬の気温が平年より低かったものの、6 月以降は高温で推移し、降水量が極端に少なかったことから、一部のほ場では出穂前後の高温・渇水による生育への影響がみられた。出穂期及び刈取適期は平年よりも早まり、作柄は、生産者が使用しているふるい目幅（1.90mm）ベースの 10a 当たり収量が 525kg で、作況単収指数は 99、水稻うるち玄米の 1 等米比率は 93.0%（令和 7 年 12 月末現在）と概ね良好であった。

一方で、近年の全国的な米不足と生産者価格の上昇から、県内の令和 7 年産主食用米の作付面積は 65,300ha と前年産に比べて 6,900ha 増加したものの、米価高騰による消費者の米離れや生産過剰による米価下落が懸念されており、需給と米価の安定を図るためには、需要に応じた米づくりの推進がますます重要となっている。

本県は米の主産県として、消費者や実需者が求める良質米の安定供給を図るとともに、「みやぎ米」が将来にわたり高い評価を得られるよう、引き続き多様なニーズに応じた高品質で良食味な米づくりを進める必要があることから、下記のとおり令和 8 年度における推進事項を定め、取り組むものとする。

また、近年顕著である地球温暖化に伴う気候変動に対応した生産体系への転換が急務であることから、「高温条件に対応した米づくり」を令和 8 年度の重点推進テーマに掲げ、取り組むこととする。

令和 8 年度重点推進テーマ

『高温条件に対応した米づくり』

令和 7 年度に引き続き、高温条件においても高品質で良食味な「みやぎ米」を生産するため、高温条件下における技術対策の着実な実施により、高温による品質低下の低減を図る。

【令和 8 年度米づくり推進事項及び取組内容】

（1）気候変動に対応した米づくり

① 高温登熟耐性等に優れる品種の導入・普及推進

- ・白未熟粒等の発生など高温による品質低下が多く見られる地域においては、高温登熟耐性に優れる「つや姫」のほか、近年の高温条件下でも高い一等米比率を維持している「だて正夢」の作付を推進する。
- ・高温登熟耐性の強い有望系統「東北 247 号」等について、優良品種決定調査（現地調査）を実施し、品種登録及び導入に向けた検討を進める。

② 高温登熟を回避するための晩期栽培や直播栽培等の推進

- ・高温登熟の回避や作期の分散を図るため、晩期栽培や直播栽培の更なる普及を推進する。
- ・「ひとめぼれ」等既存品種において、現在の気候に対応した栽培体系構築のための試験研究を実施する。

③ 堆肥等の施用による土づくりや葉色診断に基づく追肥の推進

- ・登熟期間の葉色の維持により未熟粒や割れ粃の発生低減を図るため、堆肥等の施用による土づくりや葉色診断に基づく追肥の実施を推進する。
- ・各農業改良普及センターにドローンを配備し、画像解析による生育診断ツールの実装に向けた検討を進める。

④ 出穂期前後の地温上昇を抑制する水管理（飽水管理）の推進

- ・高温や渇水時に有効な水管理である「飽水管理」を推奨するとともに、早期落水を避け、登熟後半まで稲体の活力維持を図る。

⑤ 適期刈取の励行による品質低下防止

- ・出穂後の積算気温に基づく刈取適期の目安についての情報を発信するなど、適期刈取りの励行について生産者への周知を図る。
- ・衛星画像等による刈取適期等判定の活用を検討する。

(2) 需要に応じた米づくりと収益力・販売力の強化

① 需要に応じた米づくりの推進

- ・国の需給見通し等を踏まえて設定された主食用米の「生産の目安」に基づき、地域農業再生協議会等と連携して需要に応じた米づくりに取り組む。
- ・需要拡大が見込まれる輸出用米、加工用米、米粉用米等の取組を推進する。

② 業務用米など実需と結びついた米づくりの拡大

- ・中食・外食向けの業務用米や輸出用米について、多収品種の作付拡大や直播栽培等による低コスト生産技術の普及拡大を図る。

③ 種子計画に基づく優良種子の安定生産・供給

- ・主要農作物種子条例に基づき、種子計画に基づく優良な種子の生産・供給を図る。
- ・安定的な種子生産体制を維持するため、種子生産者の確保や生産施設の老朽化対策等を支援する。

④ みやぎ米のブランド化推進による国内外への販路拡大

- ・宮城米マーケティング推進機構やJ Aグループ宮城等による県内外向けプロモーションのほか、県庁関係部課室や関係機関と連携しながら国内外への販路拡大に取り組む。
- ・多様化する消費者や実需者等のニーズに対応した新品種の導入に向け、有望系統の食味評価や、販売戦略作成に向けたマーケティング活動等を実施する。

(3) 先進技術等を活用した米づくりの効率化と高度化

① 生産性向上のためのスマート農業の推進

- ・試験研究機関や大学、農業機械メーカー等で取り組んだ実証成果を活用し、米づくりにおけるスマート農業技術の導入・普及拡大を図る。
- ・R T K基地局を活用した自動操舵等による機械作業の軽労化と高精度化を図り、生産性の向上を支援する。

② 時代のニーズに対応した生産技術の開発と現地普及

- ・生産者のニーズや経営規模の拡大に対応し、効率的な農業経営を展開するため、省力化・低コスト化技術の開発に取り組む。
- ・近年の気候変動への対応や将来の気候予測などを考慮し、安定生産に向けて、生産量や品質の低下を軽減する技術の研究開発を行う。

(4) 環境との調和に配慮した安全・安心な米づくり

① 環境負荷低減に向けた米づくりの取組推進

- ・有機JAS認証制度やみやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度等に基づく、有機栽培米や特別栽培米等の環境負荷を低減する米づくりを推進する。
- ・オーガニックビレッジに取り組む市町村やみどり認定を受けた生産者等の活動を支援する。

② 国際水準GAP導入の推進

- ・国際水準GAPの導入と認証取得について、研修会の開催やGAP指導員による現地指導等を行い、生産者等の理解促進と取組の拡大を図る。

③ 農薬の適正使用の徹底

- ・農薬危害防止運動や栽培研修会等の機会を通じて、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬使用についての周知を図る。

④ 土壌由来リスク対策の推進

- ・カドミウム吸収抑制のための栽培管理の徹底を図る。
- ・カドミウム低吸収性品種の導入検討のため、関係機関との調整や有望系統の現地実証を実施する。

(5) みやぎ米への理解と地産地消の促進

① 様々な体験等を通じたみやぎ米に対する理解促進

- ・農作業体験や試食会等の消費者交流、県内学校給食への環境保全米等の提供、SNS等での情報発信などを通じて、みやぎ米への理解促進と消費拡大を図る。

② 飲食店等におけるみやぎ米の利用促進

- ・宮城米マーケティング推進機構が指定する「おいしい“宮城米”米飯提供店」やキャンペーンの開催等を通じて、飲食店等におけるみやぎ米の利用促進を図る。